

第9回県立新発田病院跡地活用市民検討委員会資料

県立新発田病院跡地活用整備構想（案）検討資料

平成20年12月4日

企画政策課

## 1 整備構想（案）検討の考え方

県立新発田病院跡地活用市民検討委員会の中間報告の「はじめに」に記載されており、市民検討委員会の検討過程を踏まえながら、結果としての各案を吟味する。

昨年の方内プロジェクトの結論から至る「市民の主体的な活用」を主眼とした施設の運営をも視野に入れて検討する。

市民検討委員会中間報告の各案に示されている事業の実現可能性について、各担当課の事業計画・考え方、他の事例などを整理し、検討する。

## 2 検討過程

### (1) 市民検討委員会中間報告の主な考え方

- ・ 「緑化」をベースとして組み立てる。
- ・ 新発田城址という立地条件から、「歴史・文化」の視点からの活用は必然。
- ・ 「歴史・文化」を活用して「賑わい創出」を図る。
- ・ 「歴史・文化」に「生涯学習」の視点も組み込む。
- ・ 「防災」は、防災センターのような建物ではなく、災害時の避難場所のような活用ができるようにする。（平常時は、防災施設を意識しないもの）
- ・ 「行政サービス」に新市庁舎の構想は入れない。
- ・ 建物（施設）を設置する時は、なるべく多用途の複合施設とする。（歴史・資料展示、飲食・物販、生涯学習施設、市民スペースなど）
- ・ 歴史的建造物を復元（原）する時は、できるだけ史実に忠実に行う。
- ・ あやめ、桜を活用する。
- ・ 事業費、維持管理費を考慮し検討する。

中間報告では、基本テーマの組み合わせが7案提示されたが、更に3つに分類される。

「緑化」を基本に、「賑わい創出」と「歴史・文化」を基軸として、「生涯学習」を加えたもの。さらに、「防災」、「行政サービス」を加えるバリエーションもある。

「緑化」を基本に、「行政サービス」と「歴史・文化」を基軸として、「防災」を加えたもの。

新発田市の特徴・歴史をふまえた「緑化」に特化するもの。

(2) 各テーマにおける庁内検討

【各テーマの方針】

緑化

- ・ 現新発田城址公園と一体的な活用を図るため、同公園を拡充し、都市公園とする。
- ・ 災害時の活用及び防犯上の観点から、できるだけ見通しのよい広場とする。(植栽は有り)

防災

- ・ 災害時の避難場所などの活用とするため、必要最小限の設備(非常用便槽、給水施設、テントサイト、緊急物資搬入場など)を設置する。
- ・ 災害時における時系列的な活用変化を考慮する。
- ・ 防災対応専用施設は、城前にある必然性がないことから設置しない。新市庁舎建設の検討に委ねる。

行政サービス

- ・ 新市庁舎は、新発田城址としての歴史的な活用に合致しにくいこと、景観条例による高さ制限(12m)により物理的にも難しいことから、設置しない。
- ・ 行政窓口は新市庁舎建設の検討に委ねる。

歴史・文化

- ・ 新発田城址であることを考慮し、歴史的景観に配慮した整備を行う。ただし、単なる整備が目的ではなく、市民が生涯学習のために活用できるものとする。(観光客誘致のためではない)

生涯学習

- ・ 子どもからお年寄りまで全ての市民が学ぶことのできる整備を行う。
- ・ 歴史・文化施設を活用する。
- ・ 行政情報の提供や市民の意見交換の場の設置など(行政サービス)市民の利用に供する機能を付帯する。

賑わい創出

- ・ イベントができるようできるだけフラットなスペース(広場)とする。
- ・ 飲食・物販施設は公では設置しない。ただし、民間が事業を行うためのスペースは検討する。

### 3 検討結果

#### (1) 県立新発田病院跡地活用の方向性

##### ア 基本理念

子どもからお年寄りまで市民の誰もが活用でき、憩える場としての整備(観光客の誘致、利便性の向上が第一義ではない)

歴史的背景を考慮した整備(新発田城址という歴史を踏まえ、現代及び将来の新発田人に誇りをもたらす整備、活用)

災害時の活用を考慮した整備(平常時と災害時の使い分け)

##### イ 時間軸を考慮した整備のあり方

短期的、中期的、長期的展望に立った整備を行う。

短期的(5年以内)

【緑化、防災、賑わい創出】

- ・公園整備、付帯施設としての駐車場整備及び防災施設整備

【歴史・文化(生涯学習)】

- ・歴史的建造物の復原(元)を含めた生涯学習施設の整備

中期的(10年以内)(特養二の丸の移転後)

【歴史・文化(生涯学習)】

- ・歴史的建造物の復原(元)

長期的(20年以内)

【生涯学習】

- ・市民が学べる生涯学習施設の整備

##### ウ 跡地周辺地域との連携を考慮したあり方

隣接する新発田城址公園との一体的な整備(都市計画の変更による新発田城址公園の拡大)

中心市街地(特に商業地)との連携を考慮した活用

官公庁地区が隣接していることを考慮した整備

#### (2) 整備構想(案)

別紙のとおり

### 4 資料

資料 区域別施設(基本テーマ)検討

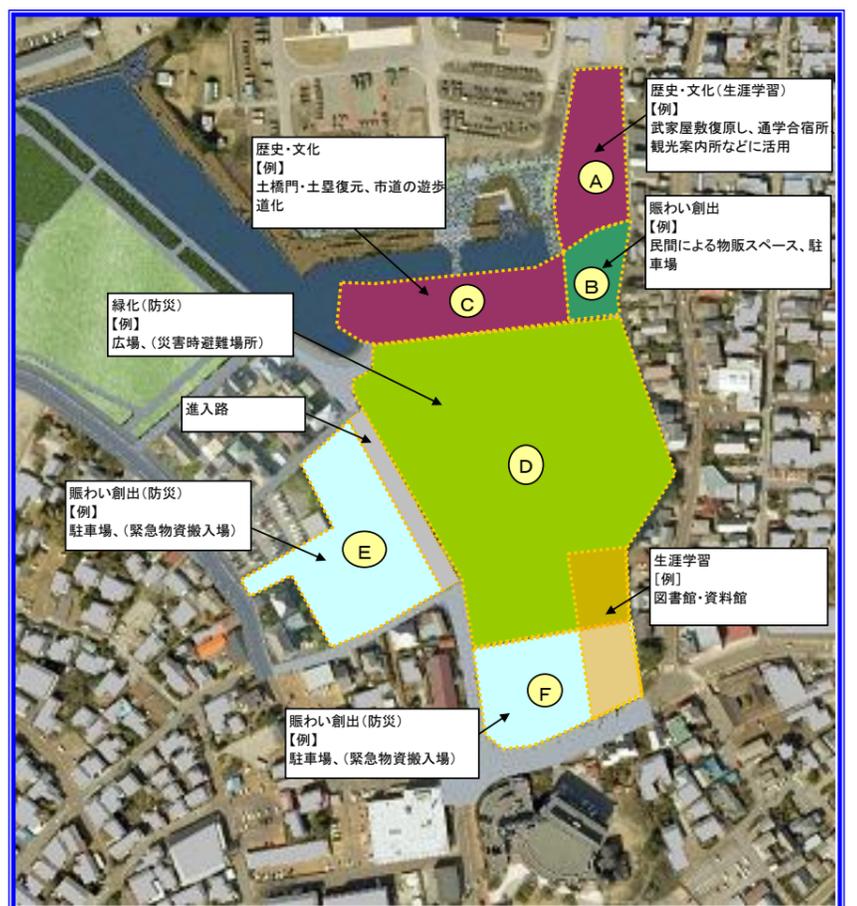
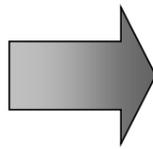
# 県立新発田病院跡地活用整備構想(案)

## 【短期(5年以内)】

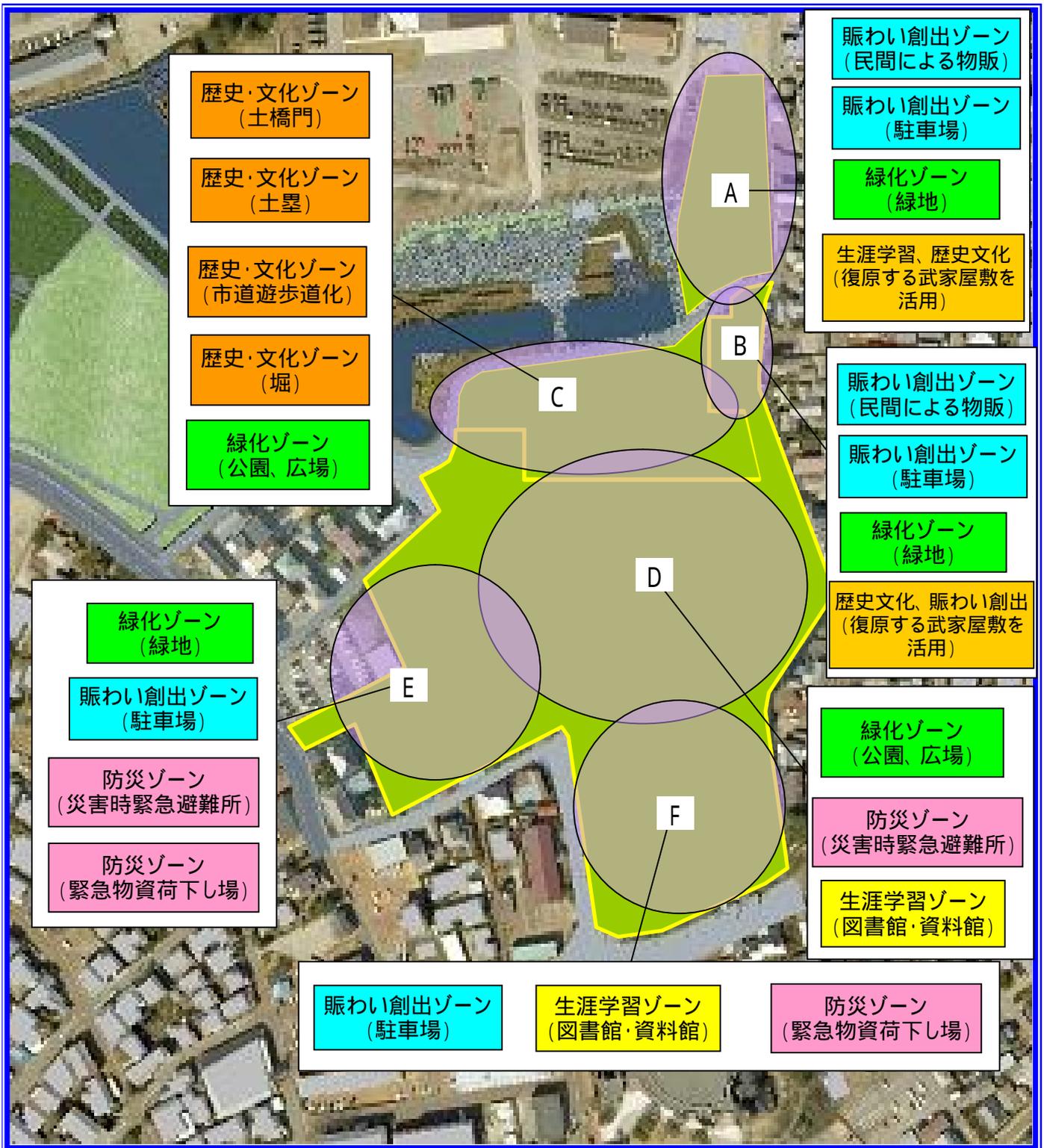


## 【中期(10年以内)】

## 【長期(20年以内)】



# 区域別施設(基本テーマ)検討



各基本テーマの( )内の施設は、検討にあたり仮に想定したものであり、具体的施設整備の検討は来年度以降に行うこととしている。

## テーマ別検討(参考)

テーマ	想定施設	考え方
緑化	・公園	・防犯上の観点から、見通しの良い空間とし森にはしない。(植栽程度) ・多くの市民が憩うことができ、かつ災害時の避難場所に転用できる。 ・イベントもできるスペース
	・緑地、植栽	・市民が憩える花壇。例えば、あやめ、桜を売り出すことも必要。 ・来訪者が記念樹を植える。再訪のきっかけ
防災	・災害時の緊急避難機能	・避難時の生活に必要な最低限の設備(非常用便槽、給水施設、テントサイト、緊急物資搬入場)
	・防災対応専用施設	・城下町のイメージに合わない。 ・当該地である必要性は小さい。 ・新・市庁舎の検討に委ねる。
行政サービス	・行政窓口	・新・市庁舎の検討に委ねる。
歴史・文化	・武家屋敷	・単に復原だけでなく活用が必要。 (活用例:道学堂塾、観光案内所、資料展示所など)
	・堀	・単に復元だけでなく活用が必要。 ・災害時に用水として活用する。(飲料水以外の生活用水) ・排水機能がないことから貯水池としての機能は不十分。
	・土橋門	・現新発田城に隣接し、一体的な活用が可能である。
	・遊歩道	・表門前の市道を遊歩道として整備 ・現市道は付け替え
	・大手中の門	・単に復元だけでなく活用が必要。 ・現新発田城と離れているため、連携した活用が難しい。 ・当該地への進入路である市道にかかるため、災害時の避難及び緊急車両の通行に支障をきたす。
生涯学習	・図書館、資料館	・学習スペースの充実 ・市史に関する資料館も併設したもの。 ・喫茶程度は有り。 ・「歴史のみち」構想との連携 ・市の「美術館のない美術館」構想から、美術館・博物館の専用施設は設置しない。
にぎわい創出	・駐車場	・公園利用者、市民文化会館等周辺公共施設利用者の利用 ・イベントができるようにできるだけ段差などは作らない。
	・物産館	・公では設置しない。民間設置用スペースの検討は有り。 ・いわゆる「お土産」ではなく、地場産農産物など市民も購入できるもの。
	・市民が集える屋内空間	・行政窓口、レストランを設置しないため、それを目的とする市民は訪れない。独立した空間としては活用しにくい。 ・「賑わい」ではないが、生涯学習機能に「集える空間」の機能を含めて検討する。
	・レストラン	・公では設置しない。

市民検討委員会中間報告、市民意見等で出された各基本テーマにおいて想定される施設のあり方を検討することにより、基本テーマのゾーニングの資料とした。なお、整備する具体的な施設や整備手法などの検討については、来年度以降に別途行う。